

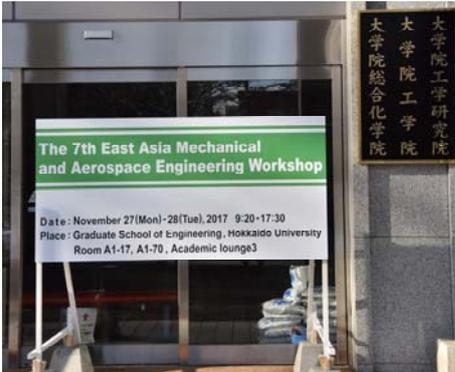
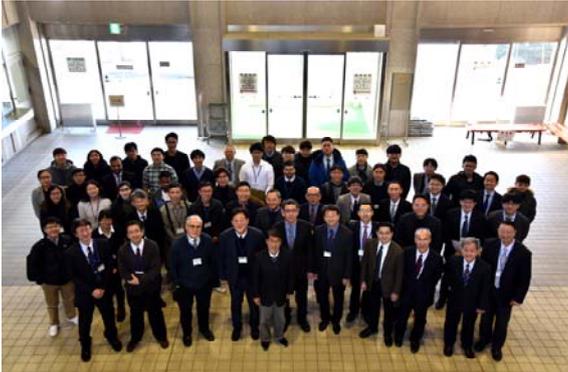
平成29年度「学術交流協定校との国際シンポジウム開催支援事業」報告書

“Grant for International Symposium with Academic Partnership University in FY 2017” Report Form

申請区分 Type of Symposium	Aタイプ（教員支援型）			
部門名 Division	応用物理学部門	実施責任者 職・氏名 Organizer(Title, Name)		教授・足立 智
	応用物理学部門	実施担当者 職/学年・氏名 Applicant(Title./School Year, Name)		助教・鍛冶 怜奈
シンポジウム名 Symposium Title	ナノサイエンス・ナノオプティクスに関する国際シンポジウム International Workshop on NanoScience and NanoOptics			
実施期間 Date, Time	2017年11月1日~3日			
シンポジウムの具体的な開催内容 Describe the contents of the symposium	北大と協定校の関係にある台湾の大学の研究者（今回は物性物理関係）を招待し、招待講演をしていただいた。また光と物性科学を研究する北大教員（応用物理学専攻、情報エレクトロニクス専攻、電子科学研究所）に量子物性科学に関する研究成果を口頭発表してもらい、議論を行った。また大学間での交換留学やインターンシップの具体的な紹介も行った。			
出席者数 Number of Participants	合計/Total 60 人/Participants			
	内訳/Details			
	人数/ Number of Participants	身分/Status	国/Country	所属機関名/University Name
	7	教授	台湾	国立交通大学
	10	教授	日本	北海道大学
	5	准教授	日本	北海道大学
	2	助教	日本	北海道大学
36	大学院生	日本	北海道大学	
シンポジウム開催による成果 Outcome	双方にメリットのある研究試料や計測手法の提供など共同研究の話し合い、インターンシップで留学した場合の具体的な受け入れ先、滞在費等の紹介などが行われ、相互に深く理解することができた。また2年後に台湾で同様の国際ワークショップが開催されることが約束された。			
今後の展望と課題 Future prospects and issues	これまで台湾国立交通大学からは3名の大学院生がインターンシップで3ヶ月滞在しているが、北大からは相手方の研究ランキングが上にも関わらず、留学しようとならない。今回は学生にもかなり深く研究内容や滞在費、および北大・相手校からの経済的支援についても説明した。現在継続している共同研究等も通じて、今後教員だけでなく、大学院生の交流も活発になることが期待される。			
その他 (本事業の要望等) Comment for the grant				

平成29年度「学術交流協定校との国際シンポジウム開催支援事業」報告書

“Grant for International Symposium with Academic Partnership University in FY 2017” Report Form

申請区分 Type of Symposium	Aタイプ（教員支援型）																										
部門名 Division	機械宇宙工学部門	実施責任者 職・氏名 Organizer(Title, Name)	教授・中村 孝																								
	機械宇宙工学部門	実施担当者 職/学年・氏名 Applicant(Title,/School Year, Name)	教授・中村 孝, 教授・藤田修, 准教授・高橋航圭, 助教・藤村奈央																								
シンポジウム名 Symposium Title	第7回東アジア機械・宇宙航空工学ワークショップ The 7th East Asia Mechanical and Aerospace Engineering Workshop																										
実施期間 Date, Time	2017年11月27日～29日																										
シンポジウムの具体的な開催内容 Describe the contents of the symposium	<p>本Workshopは、東アジアにおける機械工学および宇宙航空工学の研究レベルを強化、発展させるため、日本、韓国、台湾、香港のトップに位置する大学間で当該領域の研究・教育に関する情報交換を集中的に行うことを目的としている。参加大学は北大、National Cheng Kung Univ.(国立成功大学,台湾)、Korea Univ.(高麗大学,韓国)、The Hong Kong Polytechnic Univ.(香港理工大,香港)の4大学であり、次世代を担う若手教員や博士課程学生などの交流を強化することにより、北大の若手研究者の育成に資する。この会議は4校のうち1校がホスト校となり、2011年より毎年開催されてきた。今年は7回目を迎え、2017年11月27日～29日の期間、北海道大学工学部を主会場として実施された。本会議では、材料・固体力学・制御工学系研究、熱・流体系研究の2つのテーマで先端的な議論を深めることに加え、当該分野における大学院学生の交流強化も狙った。</p> <p>表1にプログラム概要を示す。本会議は主にPart AとPart Bの2つに分けられる。Part Aは北海道大学で実施され、27日は増田工学研究院長、小林工学院院长による挨拶の後、各大学を代表する研究者による基調講演が行われた。その後、材料・固体力学・制御工学系研究、熱・流体系研究の平行セッションにて各大学教員による口頭発表および参加学生によるショートプレゼンテーション・ポスター発表が実施された。Part</p>																										
	<p style="text-align: center;">表1 プログラム概要</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Date</th> <th>Event</th> <th>Venue</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">27<sup>th</sup> Nov.</td> <td>AM</td> <td>Registration</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">PM</td> <td>Opening Plenary lectures</td> <td rowspan="2">Faculty of Engineering, Hokkaido University</td> </tr> <tr> <td>Faculty members' session (1) • Oral presentation</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">28<sup>th</sup> Nov.</td> <td rowspan="2">AM</td> <td>Welcome Banquet</td> <td>Sapporo Bear Garden</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">PM</td> <td>Part A Students' session • Short presentation • Poster</td> <td rowspan="3">Faculty of Engineering, Hokkaido University</td> </tr> <tr> <td>Faculty members' session (2) • Oral presentation</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">Part B Technical tour</td> <td>Laboratory tour Factory tour in Sapporo area</td> </tr> <tr> <td>Special lecture</td> <td rowspan="2">Noboribetsu Sekisuitei</td> </tr> <tr> <td>29<sup>th</sup> Nov.</td> <td>AM</td> <td>Committee meeting</td> </tr> </tbody> </table>			Date	Event	Venue	27 <sup>th</sup> Nov.	AM	Registration	PM	Opening Plenary lectures	Faculty of Engineering, Hokkaido University	Faculty members' session (1) • Oral presentation	28 <sup>th</sup> Nov.	AM	Welcome Banquet	Sapporo Bear Garden	PM	Part A Students' session • Short presentation • Poster	Faculty of Engineering, Hokkaido University	Faculty members' session (2) • Oral presentation	Part B Technical tour	Laboratory tour Factory tour in Sapporo area	Special lecture	Noboribetsu Sekisuitei	29 <sup>th</sup> Nov.	AM
Date	Event	Venue																									
27 <sup>th</sup> Nov.	AM	Registration																									
	PM	Opening Plenary lectures	Faculty of Engineering, Hokkaido University																								
		Faculty members' session (1) • Oral presentation																									
28 <sup>th</sup> Nov.	AM	Welcome Banquet	Sapporo Bear Garden																								
		PM	Part A Students' session • Short presentation • Poster	Faculty of Engineering, Hokkaido University																							
	Faculty members' session (2) • Oral presentation																										
	Part B Technical tour		Laboratory tour Factory tour in Sapporo area																								
		Special lecture	Noboribetsu Sekisuitei																								
29 <sup>th</sup> Nov.	AM	Committee meeting																									
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図1 工学部玄関ホールの様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図2 ワークショップ参加教員および学生</p> </div> </div>																											

	Bではエクスカージョンを兼ねた市内工場見学後，登別石水亭にて特別講演（室蘭工大馬場直志教授）が行われた。			
出席者数 Number of Participants	合計/Total 66 人/Participants			
	内訳/Details			
	人数/ Number of Participants	身分/Status	国/Country	所属機関名/University Name
	11	教授	台湾	国立成功大学
	10	大学院生	台湾	国立成功大学
	6	教授	香港	香港理工大学
	1	大学院生	香港	香港理工大学
	6	教授	韓国	高麗大学
	8	大学院生	韓国	高麗大学
	15	教授	日本	北海道大学
9	大学院生	日本	北海道大学	
シンポジウム 開催による成果 Outcome	期間内を通じて4件の基調講演，教員による31件の口頭発表，学生による27件のポスター発表があり，参加者は教員38名（海外23名，北大15名），学生28名（海外19名，北大9名）と過去最大の規模となった。また，初日の夜には，札幌ビール園において教員と学生の懇親会がそれぞれ別会場で開催され，お互いの交流・親睦を深めた。学術交流協定校との国際シンポジウム開催支援事業の補助で実施された本会議では，極めて活発な情報交換が行われ，当初の目的を達成することができた。			
今後の展望と課題 Future prospects and issues	本ワークショップ内の実行委員会にて，この会議を今後も参加4大学の情報交換の場として発展させることが確認され，次年度は香港理工大学での開催が決定された。一方，これまで4大学のうち，成功大学および高麗大学と北大間の学術交流協定は結ばれているが，香港理工大学とは協定が締結されていない。活発な相互交流を図るためには，香港理工大学とも何らかの協定締結に向けた取組みが必要である。			
その他 (本事業の要望等) Comment for the grant	特になし。			

平成29年度「学術交流協定校との国際シンポジウム開催支援事業」報告書

“Grant for International Symposium with Academic Partnership University in FY 2017” Report Form

申請区分 Type of Symposium	Aタイプ（教員支援型）			
部門名 Division	量子理工学部門	実施責任者 職・氏名 Organizer(Title, Name)		准教授・山内有二
	量子理工学部門	実施担当者 職/学年・氏名 Applicant(Title,/School Year, Name)		准教授・山内有二
シンポジウム名 Symposium Title	第3回東義大学校-北海道大学シンポジウム			
実施期間 Date, Time	2017年8月31日～9月1日			
シンポジウムの具体的な開催内容 Describe the contents of the symposium	<p>双方の大学で実施されている、IT 関連、制御工学、農工連携、材料工学など幅広いトピックに関する研究について情報・意見交換を行った。また、北海道大学内の研究施設の見学を行った。</p> <p>別紙にアジェンダ(プログラム)を添付する。</p>			
出席者数 Number of Participants	合計/Total 20 人/Participants			
	内訳/Details			
	人数/ Number of Participants	身分/Status	国/Country	所属機関名/University Name
	7名	教授	大韓民国	東義大学校
	1名	教授	日本	北海道大学
	2名	准教授	日本	北海道大学
	1名	助教	日本	北海道大学
	1名	博士研究員	日本	北海道大学
	2名	大学院生(博士)	日本	北海道大学
6名	大学生	大韓民国	東義大学校	
シンポジウム開催による成果 Outcome	<p>それぞれの国・大学における、IT 関連研究、自動車やマルチロボット制御に関する研究、農業分野における工学応用、電子材料、核融合材料研究等について、双方で注目されているトピック、研究開発の現状や課題について共通認識を得ることができた。今後両大学間の共同研究のさらなる進展を期待している。</p>			
今後の展望と課題 Future prospects and issues	<p>当シンポジウムの前日に開催された、日中韓合同シンポジウムに関する打ち合わせにおいて、次回開催予定校としたい旨、東義大学校から提案があったとのことである。合同シンポジウムであれば、北大だけではなく、他の大学からの参加が期待でき、さらに広い分野の情報・意見交換ができるものと期待される。また、東義大学校を含めた参加校には、今回参加できなかった原子炉・核融合材料の研究者が数多く在籍しているため、当分野の情報・意見交換がさらに進むものと期待している。</p>			
その他 (本事業の要望等) Comment for the grant	特になし。			